【草花の部屋】

ジキタリス(オオバコ科ジキタリス属　Digitalis　)

和名：ジキタリス　　別名：キツネノテブクロ（狐の手袋）

英名：Digitalis、 Foxglove

シソ目　常緑多年草。　　原産地：ヨーロッパ

花言葉：熱愛、不誠実　花の色：白、ピンク、オレンジ、黄、紫、茶、複色

←↘ 写真-１、２ ジキタリス・プルプレア
(Digitalis purpurea var. alba)
撮影日：2016 年 06 月 03 日
撮影場所：モネの家～
ジュベルニー(フランス)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３ ジキタリス・プルプレア
(Digitalis purpurea)
撮影日：2016 年 06 月 03 日
撮影場所：モネの家～
ジュベルニー(フランス)にて
撮影者：M　さん

← 写真-４ ジキタリス・グランデフローラ
(Digitalis grandiflora)
撮影日：2016 年 06 月 03 日
撮影場所：モネの家～
ジュベルニー(フランス)にて
撮影者：Ｍ　さん

モネの家にある睡蓮の池畔で見かけました。睡蓮の池は、モネの画題(睡蓮)探求のために、独自の構想で造られた池。勿論、描かれている雰囲気が漂っている池です。

ジキタリスは、日本には明治時代に渡来したとされています。英名はフォックス・グローブで、和名はその直訳でキツネノテブクロと呼ばれます。種の学名はラテン語で「ゆび」を表す digitus に由来します。これは花の形が指サックに似ているためで、数字の digit やコンピューター用語のデジタル（ディジタル、digital）と語源は同じです。種名の purpurea は「紫」の意味。園芸種には白やピンクの花色のものがあります。

＜ちょっと一言＞

ジギタリスの葉を温風乾燥したものを原料としてジギトキシン、ジゴキシン、ラナトシド C などの強心配糖体を抽出していたそうですが、今日では化学的に合成されるそうです。古代から切り傷や打ち身に対して薬として使われていたそうで、鬱血性心不全の特効薬としても使用されているそうです。以前は日本薬局方に Digitalis purpurea を基原とする生薬が「ジギタリス」「ジギタリス末」として医薬品各条に収載されていましたが、第 14 改正日本薬局方第二追補(2005 年 1 月)でともに削除されたそうです。

一方でジギタリス中毒とも呼ばれる副作用として、不整脈や動悸などの循環器症状、嘔気・嘔吐などの消化器症状、頭痛・眩暈などの神経症状、視野が黄色く映る症状（黄視症）などがあるそうです。